

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日, 令和5年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月に一度、協力医療機関の東旭川病院へ通院し体調の把握に努めている。それ以外にも体調不良があった時は受診出来るように連携を取っている。24時間看護師と連絡が取れるようになっている...

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022...

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、永山地区に位置し、スーパーやコンビニ、飲食店、病院等が立ち並び、交通の便も良く、住宅地だが生活の利便性が高い環境下に立地している。法人は、市内で2つのグループホームを運営しており、統括職を中心に定例で管理者会議が行われ、事例検討や制度改正...

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果, 項目, 取り組みの成果. Contains 10 rows of evaluation items (56-65) with checkboxes and reference numbers.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は管理者と職員で考え、作成したものです。日々の実践につなげることが出来るよう、毎朝の申し送り後に管理者と職員全員で唱和しています。	法人理念の他、職員間で作成した事業所理念が定められており、管理者を中心に申し送りや会議の場で、理念に沿った考え方を共有出来ているか、定期的に確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	最近ではコロナ禍のために交流できていませんでしたが、今年は地域の保育園から運動会のお誘いがありました。しかし雨天だったため、参加することが出来ませんでした。今後はもっと交流の機会が持てると思います。	通例では地域活動に積極的に参加している。自粛傾向の中、日常的な挨拶や近況報告等、地域近隣住民との関係維持に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口を設け、地域の方のご相談にいつでも応じられるように努めています。職員の認知症に対する知識を高めるために、施設内で認知症研修を行ったりしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響でホームに外部の方を招いての会議はしばらく行っておりませんが、書面を郵送して報告を行い、それに対する意見等をいただき、サービスの向上に活かしています。	通例では、家族、地域代表、行政が参加し、定例で開催している。運営状況や現状の問題点が論議されており、メンバーから意見を聞き取り、運営に活かしている。現在は相互の自粛により、書面での開催となっている。	コロナ感染防止に引き続き留意しながら、今年度は従来の集合型での会議開催を計画している。進展に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の研修にオンラインで参加したり、運営推進会議での意見などを参考に地域との連携を図り、協力体制を築くことが出来るように取り組んでいます。	市担当者や包括支援センターからは、定例の運営推進会議での運営状況報告の他、メール・電話での相談や随時指導、アドバイスを受け、運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で身体拘束廃止検討委員会を設け、2か月に1度の職員会議で職員の率直な意見などを話し合い、理解を深めて「身体拘束をしないケア」に取り組んでいます。	身体拘束廃止検討委員会を設置し、2ヶ月ごとに定例で開催している。委員会では、現状の検証を行い、内容について職員間で共有している。不適切なケアと思われる事は、その場で注意し合えるよう、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には虐待防止推進研修に参加してもらい、研修報告を提出してもらい、2か月に一度の職員会議で研修報告を行い、虐待防止に対する意識を深め、日頃のケア時にも注意を払い、防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の影響で外部での研修参加は出来ませんが、施設内研修として職員会議の中で理解を深めるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時にご家族には十分な説明をし、不明なことや不安が残らないよう質問にも答えられるようにしている。入居後にも不安や疑問点などが無いか、ご家族との会話の中で時々尋ねるように心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に入居者の近況や体の様子などを伝えたり、通院時にはその結果や状況などを細かに電話連絡して伝え、ご家族からの意見もいただき、運営に反映させております。	通例では、主に来訪時に家族の意見、要望を聞き取り、運営に反映している。現在はホーム便りの他、電話、玄関先での面会、外部評価時の家族アンケート等、多様な情報交換の場を設定し、意見を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々職員の思いや意見、提案などを聞き出せるように職員との関係づくりにも努めています。2か月に一度の職員会議や都度のユニットカンファレンスなどでも職員の意見を聞く機会を設け、運営に反映させています。	職員会議やユニットカンファレンスの場で、職員が自由に意見を述べる機会があり、介護姿勢や業務の改善に活かしている。管理者は、随時相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力の向上ができるような、研修参加を傳達したり、日々のやりがいが向上するような関係作りに努めています。希望休も出来る限り実現できるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の影響で外部への研修参加は思うようにできておりませんが、オンデマンドでの研修や施設内での研修に積極的に参加できるよう努め、職員を育てる取り組みを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の影響で外部研修に参加できる機会が極端に減り、同業者と交流する機会も減っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずご本人との面談を行い、そこからの生活に関する不安や困っている事、要望などを聞き出せるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ずご家族や医療機関などからご本人に関する情報をいただき、面談の際にはご本人やご家族からの質問や心配事などを聞き出し、信頼関係が築くことが出来るような関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報提供書や面談時のご本人や家族との会話の中でご本人に必要な支援を率直に見極めることが出来るような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活ペースを乱さぬように職員と一緒に家事をしたり会話をする中で、ご本人の出来る事や出来ない事の把握と情報共有に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の影響で直接会っての面談は出来ませんが玄関先でガラス越しに面談をし、親子電話を使って会話できるようにご本人と家族との絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響で馴染みの場所へ外出することは難しくなっているが、ご家族や馴染みの方が施設に来訪された際には窓越しで面会していただき、親子電話を使用して会話もして頂ける様にしている。	現在も外出困難だが、馴染みの場所や友人、家族との時間を大切に支援し、生活歴の把握に努め、電話や手紙の取り次ぎ等で、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりひとりが孤立することが無い様に入居者同士の会話の間に入り橋渡しをしたり、料理作りやゲームなどのレクリエーションで入居者同士が関わり合えるような支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にもご家族様との関係を断ち切ることが無い様に必要に応じて相談等に応じられるような声かけを必ずしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は毎月各入居者に対してのモニタリングやアセスメントを行い、ご本人の現状の把握や情報の共有に努め、ご本人の思いや希望等を少しでも聞くことが出来るよう日々の会話も大切に、記録に残すようにしています。	会話や表情から思いや希望を把握し、職員間で検討している。家族からも情報を得て、入居時の基本情報に加え、定期的にモニタリングやアセスメントを行い、情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前や契約時にご本人に関する情報を医療機関やご家族から頂き、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境など把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の介護日誌に事細かに記録を残すことでご本人の現状把握と心身状態等の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の各入居者に対する個別のモニタリングやアセスメントを行う事で、今後ご本人がよりよく暮らすための課題とケアをサービス担当者会議で職員同士が話し合い、現状に即した介護計画を作成しています。	職員相互で日々のモニタリング結果を検証し、本人・家族の要望や主治医の意見を考慮しながら随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者個別の介護日誌に日々の様子や気づきを記録し、必要があればユニットカンファレンスも行い、情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	語根人の現状やニーズに対応しながら買い物や受診、デイケア通所などの柔軟な様々な支援やサービスの多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響で地域との関わりが持ていなかったのが現状ですが、今年は地域の保育園から運動会見学のお誘いが来たりしている事から今後はコロナ前のように安全で豊かな暮らしが少しでも送る支援をしていこうと思う。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の意見を大切にしながら、かかりつけ医受診など必要に応じた、その方に適した医療が受けられるよう支援しています。	かかりつけ医への受診は利用者と家族の意向に応じて支援している。協力医療機関のオンコール体制があり、看護師である施設長が情報を管理し、異変の早期発見に努め、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師である施設長や週に一回の訪問看護時にその方の変化や気づきを報告・相談し、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療が受けられるよう、また早期に退院が出来るように現状の聞き取りを病院関係者や家族と行い、情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りや終末期のケアについては入居時にご家族に説明し、希望を聞くように努めている。現在は看取りは行っていないので、そのことに関する理解もしてもらえるよう説明している。ご家族や本人の希望に寄り添った支援が出来るよう努めている。	重度化や終末期における対応は、契約時に文書で説明し同意を得ている。重篤となった場合は、医療機関へお願いしているが、本人や家族の希望により、可能な限り寄り添えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故の対応に備え各マニュアルを作成し、いつでも職員全員が閲覧できるようにしている。各職員必ず年に一度は救急救命講習に参加できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間帯を想定しての避難訓練は必ず実施している。コロナ禍の影響で地域の方のご参加は控えていただいている。	火災・地震等の災害を想定した避難訓練を定例で実施している。地域住民や法人の他事業所との協力体制も含め、備蓄品の確認を行い、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシーの確保については日々のケアの中で言葉かけの仕方など、きちんとできているか、会議の中で振り返ったり、話し合ったりしています。	利用者の立場に立ち、プライバシー、羞恥心に配慮している。日々のトイレ誘導や入浴時の対応等も見直ししながら、尊厳を損なう事のないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の多いが表せるような会話の仕方を工夫したり、自己決定が出来るように自分で選択できる言葉のかけ方に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの生活ペースを乱さぬように、その方の体調や希望に添える支援に努めています。その方らしい穏やかな暮らしが出来るよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服をご自分で選んでもらったり、季節に合ったものを着ていただけるような声かけをさせて頂いたり、お化粧の習慣がある方には変わらずお化粧をしていただいたり支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が決めた毎日のメニュー以外にも外食へ出かける事が出来なくなってしまっているため、イベント食として季節に合った料理や皆さんに喜んでいただけるような食事を提供できるよう企画しています。	利用者の希望を取り入れ、一人ひとりの嗜好に合わせた食事を心掛けている。好きなお手伝いをお願いし、楽しんで調理に参加出来るよう、職員が工夫している。コロナ禍においては、イベント食で外食気分を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や1日の水分量を把握できるよう記録に残し、食事の摂取が少なくなってきた方へは栄養補助食品を提供し、一人ひとりの状態に応じた支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアの声かけを行い見守りしながらご本人の口腔内の様子や状態も確認出来るようにしています。必要があれば訪問歯科を利用し、口腔内の清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握できるように記録に残し、時間が空いているようなら声かけを行い、出来るだけトイレでの排泄が出来るよう支援しています。	トイレでの排泄を基本として取り組んでおり、チェック表にて一人ひとりの排泄パターンやサインを共有し、自然な排泄となるように支援している。衛生用品も随時見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の体操時に腸が活発に働くような運動を取り入れたり、必要時には下剤を使用し排便パターンにあわせて、看護師指示のもと、調節を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、その方の体調や希望などで入浴日の変更も行っている。入浴の時は特に職員と1対1になるのでその時間を大切に会話にも工夫し、ご本人に安心していただけるよう努めています。	毎日お湯はりを行い、週2回以上入浴出来るよう取り組んでいる。拒否者には無理強いする事無く、時間や声掛けを工夫し、気持ちの良い入浴になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり仁の生活習慣を大切に、気持ちよく安心して睡眠が出来るよう、季節に応じた寝具や寝巻、居室の明るさや室温にも気を配り、支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その方がどんなお薬を服用しているのか、処方日には変更などが無いのか、職員全員で確認するように努めています。ご本人の日々の服薬の仕方も毎回観察し、その方が服薬しやすい様に工夫したりしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの生活歴や得意としている事の把握に努め、張り合いや喜びのある生活を送って頂けるように役割、嗜好品、楽しみ事、イベントなどを企画し、支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響で外出する機会が極端に減っていましたが、今年はドライブに出掛けたり、天気の良い日には近所を散歩したり、感染対策を行ったうえで出来る限りの支援をしています。	外出行事は自粛しているが、気候の良い時期は周辺の散策をしている。軽い運動での気分転換や心身の機能維持に努めており、コロナ禍での制限が最小限となるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力がある方は、ご家族に相談して多少のお金を所持されています。コロナ禍の影響で買い物などは職員が代行させていただいているが、ご本人の希望に合うものを購入出来るよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望すればいつでも電話がかけられるように支援しています。手紙のやり取りはありませんがご本人に聞き取りし、ご家族に伝えたいこと等を近況報告と共に代筆させていただいています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には歩行の妨げにならないよう物は置かず、デイルームには季節に合った飾り物や入居者と一緒に作った作品などを飾り、席は関係性を考慮し決めたところに座って頂いています。テレビの音量などにも気を配り、心地よい空間づくりを工夫しています。	利用者が好きな場所で過ごし、それを見守ることで、自宅のような居心地のよい環境を作り出している。リビングの飾りは、入居者の作品や、季節感に配慮されたものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごして頂けるよう、テーブル席やソファを置き、気の合う方と安心して過ごして頂けるような工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時には使い慣れた物を持って来ていただくなどして、居室でも居心地よく過ごして頂けるよう工夫しています。	居室には、自宅から使い慣れた家具や生活雑貨が持ち込まれている。状態の変化が見られた場合は、本人や家族と相談して整理・模様替えを行い、自室として、安全に安心して過ごせる環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置しており、安全に歩行出来るようにしています。居室前には表札をつけたり、共有空間やトイレには看板をつける等、一人ひとりの持っている能力を活かせるように工夫しています。		